



【今回の兼題】

- ①花衣
- ②チューリップ



郁子(岡)

廃屋やラジオ体操山笑う
 黄木蓮白と紫だけでない
 チューリップ背すじ伸ばして咲き誇る

紀美

春の田や田の字田の字に広がりぬ
 入園児母追う足のたどたどし
 ○袖通す母の遺せし花衣

迪子

チューリップ心奪われ色に酔う
 花衣母の藤色座にとけて
 昭和の日記憶の奥に祖母が居る

綾子

○春崩す幾光年の光射し
 ○子等の声遠く近くに春の磯
 ○生れし児の拳柔らか春の夕

哲也

水筒に緑茶の香り花衣
 おひさまへ背伸びしているチューリップ
 桜草ベンチの側にベビーカー

保子

チューリップさいたさいたまちかねて
 チューリップいったつもりでオランダに
 花衣はおりむせても今日だけは



千草

○ドアノブに牙むく春の静電気
 ○風の電話あなたが笑う山笑う
 ○惜春や記憶消す友また一人



ゆの

マイナスをプラスに代えてチューリップ
 おとどしいね算笥の母の花衣
 ○ランドセル花片ひとつ付けてくる

文子

お絵書きの赤白フリルチューリップ
 ○お花見にヒザの配達頼む婆
 ○タラの芽や紅差指に棘ささる

農子

○花衣大樹の下の母娘かな
 バースデーカードはみ出すチューリップ
 早苗田の見守りのごと鷺一羽

初江

花衣せめてスカーフミラノ巻き
 チューリップ児童クラブの窓開いて
 ○蜷気楼路面電車を呑み込んで

丞子

○二万三千本の一チューリップ
 ○普段着に魔法をかけて花衣
 いみじくも薄日さしこむ椿寿忌よ

酔花

○夜桜へ長患いの夫置いて
 動線の短かくなった傘寿の里
 ○ブリキ缶満月一夜とじこめる

えり

どの色も青き蕾やチューリップ
 ○棚田天雲に追いつき鳥帰る
 花衣莫産に団子の寛げる

志津子

○チューリップ遠くに海をしたがえて
 ○少年の棒にたたかれ花薊
 ○桜しべ降る何事もなかったように

富子

チューリップ我にもありし一年生
 抜き打ちの別れがありて桜降る
 花衣逝った友にも散って欲し

山下 正雄 作品

花衣娘に少し遅れ行く
 トロフィーを妻に一本チューリップ
 面取りの母のてのひら春大根

★次回市民句会

【開催日時】

令和八年五月二十日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】

①緑さす ②筍(たけのこ)

(他の題材でも構いません)

【初めての方へ】

市民句会は、俳句愛好者の集いです。
 どなたでも自由にご参加いただけます。
 事前申込や参加費は不要です。

